

靖雅堂 夏目美術店 創業95周年記念

特別リレー・インタビュー

次なる100年をめざして



撮影：安達康介

かけがえのない財産を未来へ——
夏目進（靖雅堂 夏目美術店 代表取締役社長）

美術の世界に転身したのは、33歳のときでした。同じ業界の若い方はあまり知らないかもしれませんが、その前にプロ野球選手として10年間プレーしていました。高校を卒業後、大毎オリオンズ（現・千葉ロッテマリーンズ）に入団。その後、野村克也監督に誘われトレードで南海ホークスにいきました。それから大沢啓二監督（親分）とともに、日本ハムファイターズでコーチとして活動しました。大沢監督の教えは、〈最後の最後まで決して諦めない〉という厳しいものでした。勝利の喜びやチームメイトとの絆、そして何よりも目標に向かっ

て努力することの大切さを学ぶ貴重な時間でした。写真は1970年頃、ハワイでサンフランシスコ・ジャイアンツとオープン戦を行ったときのものです。向かって右は「史上最高の中堅手」と称されたウィリー・メイズ、左は一塁手のウィリー・マッコービーで、当時二人の強打者は「MM砲」と呼ばれていました。中央にいるのが私で、27歳くらいだったと思います。あの頃の思い出は今でも鮮やかに心に残っています。

その後、1981年に夏目美術店に入社すると、二代目・夏目四郎は「交換会に出るよりも、まず

は作家まわりをしろ」と言い、奥村土牛先生や片岡球子先生、奥田元宋先生をはじめ、多くの作家のもとへ連れて行ってくれました。その中でも特に印象深かったのは平山郁夫先生です。先生とはワシントンや中国、韓国、パリ、そしてフランスのラスコー洞窟にも一緒に、作品や歴史、文化の奥深さを肌で感じることができました。

美術館や画廊に行っって色々な作品を見ることが大事です。そして自分で感じたことを言葉で説明できるように訓練すること、こうした表現力がなければ美術品の素晴らしさを人に伝えることができません。心象風景という言葉がありますが、すぐれた風景画には画家の心象が表現されていて、そこに見る人の心象が共鳴するんです。こうした経験は、単に美術の知識を得る以上に、人間としての感性や視野を大きく広げてくれたように思います。

こうした作家たちとの出会いを通じて私が学ん

だのは、文化や芸術には人の心を豊かにする力があるということです。日本には、何百年、何千年もの間、この国の風土の中で育まれてきた独自の文化があります。それは決して失ってはいけない、永遠に受け継ぐべき宝物です。そして、芸術に国境はありません。言語や民族、歴史が異なっても、芸術には人と人、心と心を結ぶ力があります。美術品は単なる「もの」ではなく、人類にとってかけがえのない財産なのです。

おかげさまで当店は今年、95周年を迎えることができました。この長い歩みの中で、私たちは多くの作家やお客様に支えられ、数々の貴重な出会いを重ねてきました。これからも、美術の魅力を広く伝え、文化を次の世代へつなげることを使命とし、日々努力を続けていきたいと考えています。

靖雅堂夏目美術店と日本の美術市場

1930年 夏目勝により創業
1937年 美術品交換会「千束会」を創設
盧溝橋事件勃発、日中戦争始まる
同開戦により戦時特別税として書画骨董等に物品税が課される
1938年 国家総動員法発令も美術分野の国家管理の促進が進む
太平洋戦争開戦
1941年 戦争で中断していた「千束会」を上野公園内の貸席「花山亭」で再開
1942年

1943年 日本美術報国会創設（会長・横山大観）
日本美術及び工芸統制協会設置
1945年 日本敗戦
1946年 東京美術倶楽部に加
美術品を含むすべての資産に財産税が課される
1948年 （有）夏目商店設立
五都連合日本画展覧会
（東京他五都市の美術倶楽部による新作入札展、54年より五都展。以降、現存作家市場的指標に）
1951年
1953年 （有）靖雅堂夏目美術店に改名
東京美術倶楽部再加入
1954年 日本洋画商協同組合発足
1958年 書画骨董の物品税全廃
1962年 東京美術商協同組合主催「オリンピック記念 古美術展覧特別販売会」
（翌年より東美特別展に）
1964年 日本美術品競売株式会社（JAA）設立
夏目勝死去
1968年 夏目四郎が代表取締役就任
文化庁発足
1969年 東京美術倶楽部で東京美術商協同組合・クリスティアーズ社共催による日本初の国際公開オークション（東京美術倶楽部、サザビーズも日本橋三越で公開オークションを開催
丸紅飯田が美術品輸入開始
（この頃より「絵画フィルム」と言われる）
1973年 美術市場の大暴落（「絵画フィルム」終焉）
1974年 東美入札会（東京美術商協同組合が誰でも参加できる公開形式の入札会を開催）



1970年頃。ハワイで行われたサンフランシスコ・ジャイアンツとロッテのオープン戦にて（中央が進氏）

なつめ・すすむ

1943年群馬県生まれ。富岡高校卒業後、大毎オリオンズへ入団。およそ10年間、捕手として活躍。引退後、日本ハムファイターズでコーチを務める。81年夏目美術店入社。先代との二人三脚で夏目美術店を大きく発展させる。2006年代表取締役就任。麴町古物商防犯協力会会長、一般社団法人全国美術商連合会副会長、日本ハムファイターズOB会副会長などを歴任。

小さな努力を、ひとつひとつ—— 夏目洋史（靖雅堂 夏目美術店 副社長）



撮影：安達康介

なつめ・ひろふみ

1977年生まれ。2002年ギャラリーぐんじに入社。07年夏目美術店入社。2020年東京美術青年会理事長（～23年1月）。現在、夏目美術店取締役副社長。

靖雅堂 夏目美術店95周年記念 奥田小由女・千住博 二人展

会期 2025年11月11日(火)～21日(金) 日曜休廊
10時30分～17時30分(土曜11時～16時30分)
会場 靖雅堂 夏目美術店
東京都千代田区九段南4-8-28
電話03(3264)6606
※11/11(火)作家在廊予定。

美術店は百貨店への販路を本格的に広げていきました。それまでは交換会が主なビジネスでしたが、以後は一般のお客様へ直接作品を届けるようになり、活動の幅が大きく広がりました。私が店に戻ってからは、百貨店だけでなくアートフェアにも力を入れるようになりました。

レクターは、肩書や受賞歴といった外的な評価ではなく、自分の感性に響く作品を選んでいる。その姿勢に触れるたびに、私たち画商も「こういう作品を届けたい」という確かな思いを持つことが、何より大切だと実感しています。

1999年 東美アートフェア
2001年 「伝統からの創造 21世紀展」
（現美展を発展的継承）
毎日オークション創業
2005年 アートフェア東京（MATAを発展的継承）
2006年 夏目四郎死去
夏目進が代表取締役に就任
2011年 千束会創業80周年記念大会
2015年 千束会創業85周年記念大会
2016年 「創と造」（21世紀展の発展的継承）
2023年 Tokyo Gendai
（日本初、海外資本の国際アートフェア）

私がこの業界で修業を始めたのは24歳のとき。夏目から独立した「ギャラリーぐんじ」で、一から勉強させていただきました。家業を継ぐように言われたことはありません。むしろ「自分の好きな仕事に就けばいい」というのが親の考えでしたが、心のどこかで「いつかは継ぐのだろう」という気持ちがあったのだと思います。

一人での初仕事は、徳島でこうで開催された「棟方志功展」でした。ギャラリーぐんじと西邑画廊の共同企画で、入社してまだ日も浅い頃。右も左も分からないまま、ぐんじ側の担当として現場に立つことになりました。当時は、百貨店に「外販」というシステムがあることすら知らなかったほどです。

1990年 斎藤了英がNYクリスティーズオークションでゴッホ「医師ガシエの肖像」を約125億円、サザビーズオークションでルノワール「ムーランド・ド・ラ・ギャレットの舞踏会」を約118円で各々落札（美術市場のバブル景気ピークに。以後、急激に景気が冷え込む）
東京アートエキスポ
（日本初の国際アートフェア）
1991年 新社店舗ビル落成
美術商所得申告第一位となる
株式会社組織変更
1992年 MATA YOKOHAMA（横浜を舞台にした国際アートフェア、97年より東京に会場を移す）

靖雅堂 夏目美術店 創業95周年記念 特別リレー・インタビュー

次なる100年をめざして



好評を博したアートフェア東京20での丁子紅子展（2024年3月）

1980年 銀座セントラル美術館で50周年記念展
1985年 店舗ビル落成
1986年 前年のプラザ合意で円高ドル安が進みバブル景気が始まる
1988年 現美展（五都展を発展的継承）
政府がドル減らしの一環として国立美術館の約30億円の海外作品特別購入を発表
三越がピカソ「軽業師と若い道化師」を48億円で落札、西武百貨店がモネ「睡蓮」を13億円で落札（以後、海外オークションで日本人の高額落札が続く）
1989年 昭和天皇崩御、年号が昭和から平成に帝国ホテルで開催されたサザビーズオークションでピカソ「ピエレッタの婚礼」を日本オートボリスが約75億円で落札（当時歴代2位の落札価格）
シンワオークション創業
1990年 斎藤了英がNYクリスティーズオークションでゴッホ「医師ガシエの肖像」を約125億円、サザビーズオークションでルノワール「ムーランド・ド・ラ・ギャレットの舞踏会」を約118円で各々落札（美術市場のバブル景気ピークに。以後、急激に景気が冷え込む）
東京アートエキスポ
（日本初の国際アートフェア）
1991年 新社店舗ビル落成
美術商所得申告第一位となる
株式会社組織変更
1992年 MATA YOKOHAMA（横浜を舞台にした国際アートフェア、97年より東京に会場を移す）